

第 3 回淡路島総合観光戦略策定会議(11/25)における修正意見への対応

修正意見①

- ・ 今回の KPI が「量」ではなく「率」の目標になっている。KPI はパフォーマンスのインジケータであるが、そもそものゴールが明確でない。「量を変えずに比率を変える」のであれば、数を決めないと比率が決まらない。量を設定することが必要（量があつての比率）。
- ・ KPI では消費額が一番に来るのではないか。
- ・ 住民・観光客の満足度は相対的なもの。観光客が減れば、ゆとりが生まれ、観光客の満足度が上がる。パフォーマンスとしてのインジケータではあるが、ゴールではないのでは。

【対応】（資料 3 P27～30）

戦略案・本編（資料 3）「第 3 章 本戦略のめざすところ 4 評価指標」において反映

- ・ 最終的に追い求める目標値として、淡路地域における「観光 GDP」を設定する。
- ・ これを達成するために、「観光客の消費単価」と「域内調達率」を向上させる目標値があり、「観光客の消費単価」の向上のために、近畿圏以外の宿泊者の「発地別比率」を向上させる。
 - また、観光 GDP が増大することで、相対的に「域内比率」と「住民一人当たりの所得」が向上し、「住民満足度」「観光理解度」を上げていく。
- ・ 評価指標の目標値については、資料 4 を参照。
 - * 観光 GDP
 - コロナ禍前の 2019 年の 696 億円を発射台として 10%増の 766 億円とする。
 - * 宿泊地の発地別比率（近畿圏以外の宿泊者比率）
 - コロナ禍前の 2019 年の近畿地方における他の観光地の豊岡市（城崎温泉）32.7%、白浜町（白浜温泉）36.7%を目指して 35%とする。
 - * 観光客の消費単価
 - インターネットによる旅行者アンケート調査（サンプル数 400）でデータを収集把握する。既存データがないため、1、2 年度目のデータを踏まえて目標値を設定する。
 - * 域内調達率
 - 食材の調達度合いについて、観光協会会員が管理する宿泊施設に対するアンケート調査により把握し、1、2 年度の結果を踏まえて目標値を設定する。
 - * 観光客の満足度
 - ひょうご観光本部が四半期ごとに実施する満足度調査（全 7 項目）について、満足度の年間平均値を 90%以上とする。
 - * 観光 GDP の域内比率
 - 5 年後の観光 GDP 10%増を見込み、域内比率を現状 15%から 17%とする。
 - * 住民満足度
 - 現行戦略で達成できていない 76%とする。
 - * 観光理解度
 - 県民意識調査において、住民の観光への理解度を問う設問を設ける。既存データがないため、1、2 年度目のデータを踏まえて目標値を設定する。

修正意見②

- ・ 「兵庫テロワール旅」は、県全体の施策であり、兵庫デスティネーションキャンペーン期間だけではなく、今後も継続していくことであり、表現を取り入れてほしい。

【対応】（資料3 P24）

戦略案・本編（資料3）「第3章 本戦略のめざすところ 3 本戦略の体系（2）推進戦略」において反映。

- ・ 兵庫テロワール旅にふさわしい地域の風土（テロワール）を活かしたコンテンツづくり

修正意見③

- ・ 今までの戦略骨格案にかかる策定会議の議論経緯を踏まえた上で、記載をしてほしい（「戦略骨格案」に記載されていた施策が記載されていない）。

【対応】（資料3 P23～27）

戦略案・本編（資料3）「第3章 本戦略のめざすところ 3 本戦略の体系」に追記。